



■事務局稼働日のお知らせ

事務局の稼働日は週1回水曜日となっております。ご不便をおかけいたしますがご了承ください。尚、8月18日(水)はお休みいたします。急ぎのご注文の場合は8月11日(水)15時までにご連絡ください。

■ブレインジムデイ記録集を販売しています



■2017年、2018年、2019年版
各一冊 1,100円 送料 84円

■日本限定ブレインジムカードを販売しています



【1セット】 ¥3,500+税=¥3,850
【送料】 1セット 180円(スマートレター)
2~8セット 370円(レターパックライト)
9セット以上はヤマト便着払いとなります。



【お問い合わせ】事務局 jimukyoku@edu-k.jp

●<えでゆとく>は、知っているとちょっとお得な豆知識コーナーです



顔を思い出せる?

天田 武志 (神奈川)

ある小学生から「教室で顔を思い出せない子がいる」という話を聞きました。

顔の相当部分を隠してしまうマスク。今では当たり前となりましたが、子どもの社会性の発達に何らかの影響があるのでしょうか？ まずは顔の認知の発達について調べてみました。

顔を認知するためには、まず相手の顔を見る必要があります。ということで、まず視覚機能の発達について押さえておきたいと思います。

生まれたばかりの新生児の視力は大人で言うところの0.02程度の視力しかないそうです。その後、視力は急速に発達しますが、それでも半年後で0.2程度だそうです。そして、視覚情報を受け取る脳もまだ発達の途中であることから、乳児の視覚の世界は「とにかく見えにくい」ということが特徴だと考えられています。

色に関しては、生後2ヶ月で赤と緑が、生後4ヶ月では青と黄色が見えるようになり、生後4ヶ月頃には成人とほぼ同じように色が見える(識別できる?)ようになるそうです。

形に関してはどうでしょう？ 生後3ヶ月までの乳児にとって形を見ることは苦手なのですが、動きをつけることで物の形が見やすくなるそうです。赤ちゃんの目の前で、物を動かしてあげることに意味がありそうです。動きを伴う形の認識から3次元の物体の認知へと発達は進み、7ヶ月ころには物体の素材や質感の違いも認識できるようになります。

さて乳児の顔を見る能力ですが、1960年代に言葉を喋ることのできない乳児の認知能力を調べる実験手法を開発する中で、乳児は顔を見ることを好むことが偶然発見されました。特に単純化された顔図形を好むそうです。

顔が顔として成立する定義は、目や鼻や口のそれぞれの特徴ではなく、目鼻口の配置にあります。大人でも二つの目と口の位置にそれらしきものがあるというパターンを見出すと、それが顔でなくても顔と認識してしまいます。乳児も全く同じで、顔の特徴ではなく、配置を好むことが明らかになっています。(次回へ続く)

※乳児の発達研究の第一人者である、山口真美先生の研究を参考にさせていただきました。
https://radit21.com/yamaguchi-masami_20200319/

えでゆけ

Edu-k Journal

vol. 33

Summer 2021



季刊(年4回発行) 発行: NPO法人日本教育キネシオロジー協会 事務局: 神奈川県横浜市神奈川区台町2-5-701 電話: 045-534-7148

「未来のために」ブレインジムができること⑭

「インターネットでブレインジム紹介講座やりました。」

NPO法人楠の木学園 学園長 神田 誠一郎 (神奈川)



昨年度末に特別支援学校の先生方や保護者のための勉強会でブレインジムとはどんなものなのかを紹介するという機会をいただきました。これまでも、保健室の先生方の集まりや地元の小中学校の先生方から、お声掛けいただき、ブレインジムのシンプルな運動を繰り返しているうちに子どもたちがこれまで難しいと感じていたことを楽にできるようになっていく様子などをお伝えすることはさせていただいているので、今回も喜んでお引き受けしました。ただ時節柄Zoomを使うということで、そこがちょっと不慣れなことへの挑戦でした。

協会の勉強会として、私の動きと喋りを他のインストラクター仲間にも見てもらって、気づいた点を教えていただき、修正してゆくというリハーサルのような練習もさせていただきました。カメラの位置は固定されているので、話すときは顔の表情が見えるくらいまでカメラに近く座って話し、動きを見せるときには5メートルくらい後ろに下がって体操するということを繰り返しました。当たり前ですが、相手がうなずいたり、退屈そうにしていたり、眠そうにしていたりといった反応は見えないので、なんか一方通行になって

いなければいいなという不安を感じながら、ペースの紹介と、ブレインジムを通して子どもたちが安心して楽しく生きるやり方を自分の中に育てていく様子をお話ししました。

インストラクター仲間からは、「このタイミングで『では、一緒に動いてみましょう!』と声掛けてもらった方が、置き去りにされた感がなくなり、自然に動きに入っていける。」「背景の壁や黒板と同系色の服は見づらいから避けましょう。」などたくさんの気づきをいただき大いに励まされました。イラスト入りの資料を用意して当日はそのページをめくるという仕事まで分担してもらって、やっと90分ほどの講座をすることができました。(みなさん本当にありがとうございました。)

話している最中にチャットとかいう小さな窓に参加者の感想や質問が次々と出てくるのですが、一つひとつ確かめて対応している余裕はとでもありませんでした。

私が何を置いてもお伝えしたかったのは、「私が楽しく動けたので、子どもたちも楽しく動きの体験を共有してくれるので、ブレインジムの効果が得られやすい!」という点でした。この機会にブレインジムに興味がつながった方

がいらしたら、日本全国にインストラクターがいて活動しているので、ぜひ近場の方にコンタクトを取ってくださいとも言いました。(500名以上の参加者があったそうなので、もしや連絡を受けるインストラクターがありましたら、アフターケアをよろしく願いいたします。)

講座の後に感想をみなさん書き込んでくれるのですが、「同じ動きでも楽しく体験することで、深い学びにつながりやすくなるのがわかりました。」というコメントがいくつもあり、不慣れなインターネットを介しての講座でしたがやらせていただいてよかった、と思いました。

直接顔を見ながらお伝えしたいブレインジムではありますが、「ネットでも伝えられることがたくさんありそうだ?!」とその可能性に大いに注目することになった初挑戦の講座でした。支えてくださったみなさま、本当にありがとうございました。



zoom画面の神田先生

